



関連データ

Peripheral Driver Generator の活用方法

新海 栄治

前編に引き続き、RXマイコンに内蔵されているさまざまな周辺機能を活用するためのPeripheral Driver Generatorの使い方について解説する。後編の今回は拡張ベースボードCQBB-ELに対応したサンプル・プログラムを作成する。
(編集部)

1. 拡張ベース・ボードCQBB-EL用のプログラム作成

前編(2011年7月号, pp.137-146)では、本誌2011年5月号に付属していたRX62Nマイコン基板でサンプル・プログラムを動かすまでを解説しました。しかしRX62Nマイコン基板単体にはI/Oがほとんど搭載されていません。そこで本誌でもたびたび紹介されていた拡張ベース・ボードCQBB-ELを使い、PDG(Peripheral Driver Generator)でI/Oを制御するプログラムを作ってみます。

写真1に拡張ベース・ボードCQBB-ELの外観を、図1にRX62Nマイコン基板と組み合わせた場合のブロック図を示します。

● PDGを使って拡張ベース・ボード(CQBB-EL)のI/Oを制御してみよう

CQBB-ELには、2桁の7セグメントLED、4個のタクト・スイッチ、8ビットのディップ・スイッチ、スライド・ボリューム(可変抵抗)、温度センサ、シリアル・ポート、マイク、スピーカなどいろいろなI/Oが搭載されています。このうち7セグメントLED、タクト・スイッチ、可変抵抗を使ったプログラムのドライバ部分をPDGで作って

みます。
サンプル・プログラムへ、前

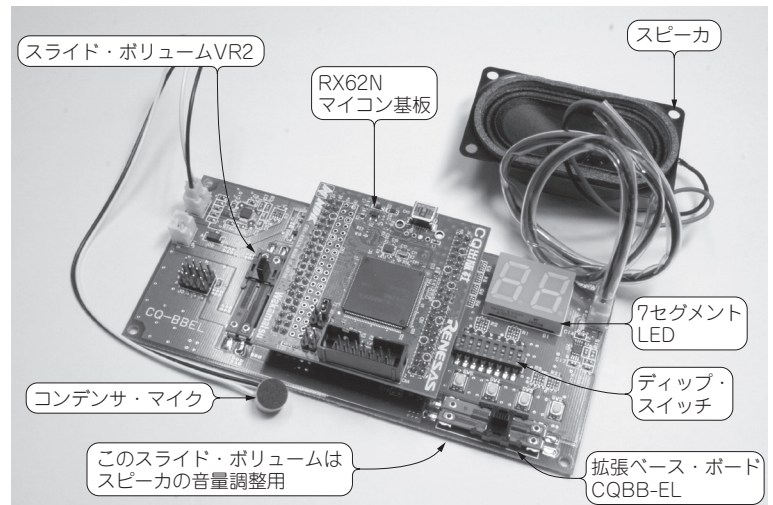


写真1 拡張ベース・ボードCQBB-EL

開発元: (株)イーエスピー企画

<http://www.esp.jp/>

販売: (株)若松通商 次世代デバイスショップ

〒101-0021 東京都千代田区外神田4-7-3 若松通商ビル5F

<http://www.wakamatsu.biz/>

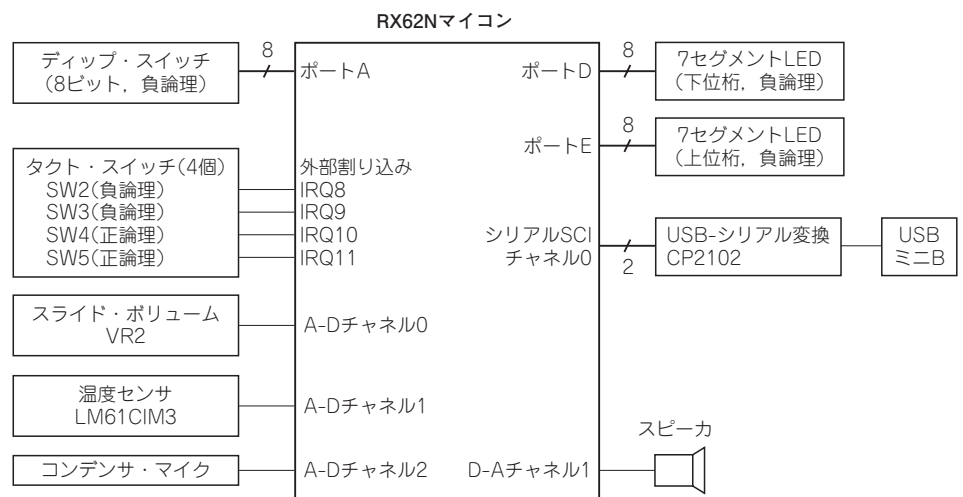


図1 拡張ベース・ボードCQBB-EL + RX62Nマイコン基板のブロック図